



アスピリス!

JFA



サステナビリティレポート2024

公益財団法人日本サッカー協会



2025年6月9日、大阪・関西万博会場内で、北澤豪日本障がい者サッカー連盟会長（左）、国連事務次長補兼2025年大阪・関西万博国連陳列区域代表（中央右）、元なでしこジャパン阪口夢穂さん（右）とともに、国連イニシアチブ「Football for the Goals」への賛同を表明

公益財団法人日本サッカー協会 会長

宮本 恒靖

2015年に国連で持続可能な開発目標（SDGs）が制定されて以降、サステナビリティの概念は広く社会に普及し、今やあらゆる組織において経営の中核に据えられるものになっています。しかし、地球環境は温暖化や海洋汚染など深刻な問題に直面していますし、SNSなどによる誹謗中傷や差別なども大きな社会問題になっています。また、貧困問題も教育や体験機会の格差、健康格差など、特に子どもや弱者に深刻な影響を及ぼしています。

スポーツは心身の健康をもたらすだけでなく、国や宗教、性別、世代などの違いを超えて交流を育み、コミュニティの形成や活性化など地方創生にも寄与するものだと思います。スポーツから学ぶことのできる「フェアプレー」や「リスペクト」もダイバーシティの推進や公正な社会を形成する上で重要なファクターになり得ると考えます。

日本サッカー協会（JFA）は早い段階から青少年の健全な心身の発達やリスペクト・フェアプレーの推進、環境保全活動などに取り組んできました。創立100周年を迎えた2021年以降は、社会貢献やSDGsの達成につながる活動を「アスパス！」と称して、重点領域とする「環境」「人権」「健康」「教育」「地域」に戦略的に取り組んでいます。

この「サステナビリティレポート」は「アスパス！」の年次報告書です。各種取り組みを検証して次に生かすとともに、サッカーの力とサッカーファミリーの協力を得ながら社会課題の解決と持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進していきたいと考えています。

夢を語り合うツールとして

このレポートは、国際社会の目標でもある持続可能な社会の発展に、サッカーを通じて貢献していることを可視化するために、統合報告評議会（IIRC）の「国際統合報告フレームワーク」や、Global Sustainability Standards Board（GSSB）の「GRISTANDARD」等のガイドラインを参考に作成しました。私達のスローガン「Dream～夢があるから強くなる～」をイメージしながら、多くの方々と「夢」を語り合うためのツールとしてご活用ください。

背景

JFAはサッカー競技を統括する唯一の競技団体としての社会的責任を踏まえ、「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念を掲げ、活動しています。JFAは47都道府県サッカー協会、9地域サッカー協会、Jリーグ、各種連盟や関連団体や、価値観や目標を共有する様々なパートナーとの活動を通じて、社会の発展に貢献しています。

このレポートは、JFAがサッカーファミリーやパートナーと連携しながら実施する持続可能性（サステナビリティ）に関する活動（アスパス!）の情報について、ステークホルダーの皆様と共有し、透明性のある、効率的な組織運営につなげることを目的に作成するものです。

スコープ

2019年より、社会貢献委員会の活動を中心に年に1回報告を行ってきましたが、JFAとして社会の発展に貢献するための取り組み（社会貢献活動）をより強化し、重要課題の設定等を通じて組織全体に活動を統合する動きに合わせ、2021年版は「社会貢献活動レポート」として制作しました。その後2022-23年版からは「サステナビリティレポート」として発信しています。

このレポートでは、アスパス!の5つの重要課題を基に、JFAやステークホルダーにとって関連の大きい活動を中心に報告します。そのため、より詳しい情報や最新情報については、JFA公式ウェブサイト「JFA.jp」や関係するウェブサイトもあわせてご参照ください。

報告の対象と枠組み

このレポートの報告対象は、特に断りがない限り2024年度（2024年1月1日から2024年12月31日）の1年間に係るものとしていますが、それぞれの取り組みの進捗・今後の見通し等を中心に、本レポート制作時点までの情報を含むことがあります。

また、SDGsターゲット12.6において求められている、持続可能性に関する情報が含まれた定期報告にあたります。このほか、JFAが加盟する国際イニシアチブ（国連グローバル・コンパクト、女性のエンパワーメント原則（WEPS）、フットボール・フォー・ザ・ゴールズ）の定期報告を構成します。



～1970年代

1980年代

1990年代

2000年代

2010年代

2020年代

サステナビリティ

環境問題への対応

CSRへの注目
(企業の社会的責任)

2015

SDGs設定
(持続可能な開発目標)

経営への統合
(CSV・価値共創)

2010

ISO26000 (社会的責任)

2012

ISO20121 (サステナブルイベントマネジメントシステム)

ESG

2000

国連グローバル・コンパクト発足
(人権・労働・環境・腐敗防止)

2006

責任投資原則・ESG投資
(スチュワードシップ責任・ESG情報開示)

ESG経営
(ビジネスモデル構築)

環境

環境汚染の深刻化

1993

環境基本法制定

1996

ISO14001普及
(環境マネジメントシステム)

1997

温室効果ガス削減目標設定
(京都議定書)

2015

気候変動の深刻化
(パリ協定)

人権

1976

国際人権規約
(社会権・自由権)

1990

子どもの権利条約

2011

ビジネスと人権に関する指導原則
(国家の義務・企業の責任・救済アクセス)

1985

女子差別撤廃条約

1996

人種差別撤廃条約

2014

障害者権利条約

JFA

1974

公益法人認可
(旧民法の財団法人として)

加盟団体の法人化

2012

新公益法人移行
(新制度の公益財団法人)

2016

倫理規範制定

2019

スポーツ団体
ガバナンスコード

2009

国連グローバル・コンパクト加入

2016

社会貢献委員会発足

2015

グールスーツ宣言

(障がい者サッカー・社会課題への貢献)

2006

環境プロジェクト

2008

リスペクトプロジェクト

2019

SDGs推進プロジェクト

1月1日

能登半島地震発生
復興支援プロジェクト活動開始

3月21日～

JFAインクルーシブプログラムへ
株式会社みずほフィナンシャル・グループが協賛

1月24日

田嶋幸三会長（当時）がAFアジアカップ2023における
SNS上での差別的発言や誹謗中傷に対して抗議の声明を発表

3月8日

JFA女子サッカーデー
オンラインパネルディスカッション（3月5日）
マルチスポーツフェスティバル（3月16日）
HER TEAM CUP（3月23日～31日）を開催

3月23日

定時評議員会・理事会
宮本恒靖会長を選出

3月25日

国際親善試合
U-23日本代表 vs U-23ウクライナ代表

3月1日

6月1日

JFA Partnership for NOTO
夢キャンプ2024 with SAMURAI BLUE
能登半島地震被災地チームを招いて開催

6月16日

文京区立スポーツ施設の指定管理者である
「文京区スポーツ推進共同事業体」に参画し
「街とみんなの運動フェス」を初開催

7月13日

MS&ADカップ2024能登半島地震
復興支援マッチ～がんばろう能登～
なでしこジャパン vs ガーナ女子代表

5月12日～

JFA・キリン ビッグスマイルフィールド
石川県／能登町立柳田小学校で開催
（継続して開催中）



復興支援マッチのチケット売上全額に加えて、同額を「JFA能登半島地震サッカーファミリー復興支援金」として拠出（P21参照）

7月24日～

第33回オリンピック競技大会
なでしこジャパン、U-23日本代表ともに
グループステージ突破

10月29日

AFC年間表彰式でJFAが
年間最優秀協会賞（ブラチナム）を受賞

11月23日

天皇杯JFA第104回全日本サッカー選手権大会
能登半島地震の被災地の子どもたちを招待

2024

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

2025



「Access for All」宣言を受けて、1年後の2025年4月にハンドブックを発行（P15参照）

4月1日

「Access for All」宣言を実施

8月1日

小学校体育サポート
JFA KDDI DREAM KIDS PROJECT
キックオフイベントを開催

10月22日

納税の大切さを社会に広めるため
JFAが国税庁広報大使に就任

11月17日～

JFA×MS&AD なでしこ“つぼみ”プロジェクト
女子中学生の受け皿づくりを目指し
茨城県／IFAフットボールセンターで開催

5月5日～

親子で遊びながら体を動かすことの楽しさを知り、
スポーツを好きになるきっかけを提供する
ベビー＆キッズ BALL TIMEを株式会社ボーネルンドで開催

11月12日

気候変動の影響による熱中症の増加を受け2025年度以降は
JFA主催・直轄大会等を7月・8月に原則開催しないことを決定し周知

5月19日

フランス／クレールフォンテーヌで
JFAユニクロサッカーキッズを開催

9月14日

リスベクトシンポジウム2024
オンラインで約200人が参加

11月15日

体験型教育ワークショップ「NO AWAY ACADEMY」を
三井不動産株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ、
株式会社読売新聞東京本社で開催

6月9日

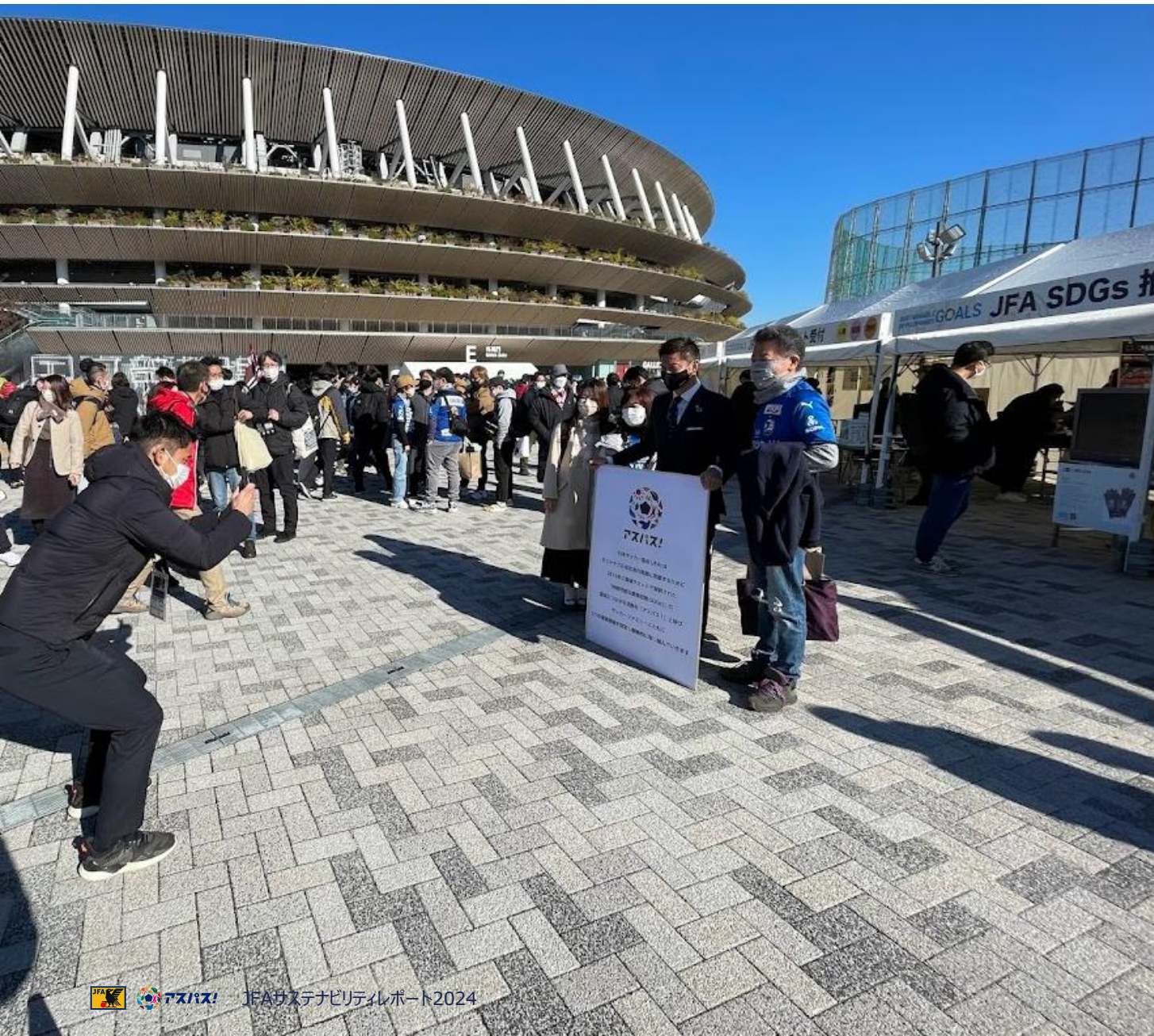
JFA第24回全日本O-60サッカー大会
JFA第18回全日本O-70サッカー大会
秋田県にかほ市で開催

9月16日～

JFA× <みずほ>
BLUE DREAM みらいスクール
鳥取県からスタート

12月27日～

全日本空輸株式会社と小学校5・6年生のチームを
JFA 第47回全日本U-12サッカー選手権大会へ招待



アスパス！

「アスパス！」は“地球(earth)の明日(未来)のために私たち(us)が様々なパス”の意を含めた造語で、サッカーファミリーが世代や時代を超えて“パスを繋いでいく”という強い決意を表現しています。

ロゴには地球でできたサッカーボールが描かれ、サッカーファミリーが人々や動物、環境などのすべてと一つのチームとなって、地球の明日をつくっていくことをイメージし、制作しました。



環境



人権



健康



教育



地域

JFAはサッカー競技を統括する唯一の団体としての社会的責任を踏まえ、これまでも関係する団体とともにさまざまなサステナビリティに関する活動を推進してきました。2021年に創立100周年を迎えたJFAは、次の100年に向かって「環境、人権、健康、教育、地域」の5つの重要課題を設定しました。



① 気候変動の緩和対策



② 熱中症の予防



③ 暴力・差別の根絶



④ 子どもの体験格差解消



⑤ ジェンダー平等



⑥ 共生社会の実現



⑦ 健康のコミュニティづくり



⑧ 夢を描く教育



⑨ 地域の復興支援と防災・減災

重要課題において特に注力するテーマを設定し、サステナビリティを戦略的に経営に統合し、より一層、サッカーを通じた持続可能な社会の発展に貢献していきたいと考えています。本レポートでは、これらの重要課題、注力テーマに沿って情報を整理しています。

目次

トップメッセージ	2
このレポートについて	3
サステナビリティの潮流	4
タイムライン	5
アスパス！と重要課題	6

サッカーファミリーと紡ぐ 重要課題の ストーリー



サッカーの価値を可視化する・仲間を集める	24
社会的インパクト評価	25
JFA Partnership Project for DREAM	26
JFA クラウドファンディング	27
JFAの理念・ビジョン・約束2050	28
中期計画2023-2026（抜粋）	29
サステナビリティの方向性	30
サステナビリティ推進戦略	31
パートナーシップ・国際イニシアチブ	32
関連組織図	33
ガバナンス体制図	34
ESGデータ集	35



環境

サッカーにおける様々な活動で
気候変動による熱中症等を防ぎ
温室効果ガスや廃棄物の削減で
わたしたちの自然環境を守ろう

8



人権

差別や暴力のない自由で平等な
スポーツの世界を一緒に築いて
年齢・性別・障がいの有無等に
関係なく輝ける社会をつくろう

11



健康

スポーツの楽しさを感じられる
グラスルーツサッカーを広めて
心身ともに健康的でいつまでも
元気と笑顔溢れる人生を送ろう

17



教育

スポーツで社会をよくするため
必要な知識や技術を身につけて
サッカーが持つ魅力を活かした
持続可能な未来を築いていこう

19



地域

持続可能性に配慮して行動する
地域の人々の様々なつながりを
サッカーを通じてつくることで
私たちの住みやすい街を守ろう

21



①気候変動の緩和対策
温室効果ガスの排出量を知る

9



②熱中症の予防
気候変動の影響を最小限に

10



③暴力・差別の根絶
セーフガーディングの推進

12



④子どもの体験格差解消
スポーツの体験機会をみんなに

13



⑤ジェンダー平等
女性のエンパワーメント

14



⑥共生社会の実現
誰も取り残さないスポーツ環境

15



⑦健康のコミュニティづくり
だれもが・いつでも・どこでも

18



⑧夢を描く教育
サステナブルな未来への貢献

20



⑨地域の復興支援と防災・減災
サッカーファミリーの力を被災地へ

22



サッカーにおける様々な活動で
気候変動による熱中症等を防ぎ
温室効果ガスや廃棄物の削減で
わたしたちの自然環境を守ろう

なぜ重要なのか？

SDGsは世界的、地球的な課題解決のための目標です。環境省によると、SDGsの17のゴールのうち13は直接的に「環境」に関連するもので、残り4つも間接的に関連することから、SDGsはすべての領域で環境に関連しています。このうち、**ゴール13の「気候変動に具体的な対策を」とゴール12「つくる責任つかう責任（持続可能な消費と生産）」**は、国の重点施策とも密接に関連しています。



気候変動に具体的な対策を

気候変動については、**温室効果ガス排出を削減する「緩和」**の取り組みが急務となっています。政府は2020年に、「2050年**カーボンニュートラル宣言**」を行いました。**脱炭素社会の実現**が社会経済を大きく変革し、投資を促し、生産性を向上させ、産業構造の大転換と力強い成長を生み出す鍵となるものと位置づけ、**脱炭素イノベーション推進**のための2兆円の基金創設、**再生可能エネルギー**の拡充、脱炭素ライフスタイルへの変換、**ゼロカーボンシティ**（脱炭素地域創出）などの施策を行っています。また、これら気候変動の「緩和」のみならず、2018年に施行された気候変動適応法により、温暖化の進展により顕著となっている**熱中症・感染症**や大型台風や落雷等の**異常気象**の影響を軽減する「**適応**」の推進も求められており、**熱中症対策**も気候変動対策の一つに位置づけられます。これらの気候変動への適応、緩和、影響軽減、早期警戒に関する**教育（ESD）**、**啓発**なども、ゴール13のターゲットとされています。スポーツは、今後気候変動対策のために社会が大きく変化する時代において、取り残されがちな人々にフォーカスし、社会全体を牽引する大きな原動力となることもできます。



持続可能な生産と消費

もう一方の持続可能な生産と消費については、主に生産・消費のライフサイクル全体を通して、**天然資源や有害物質の利用削減、廃棄物や汚染物質の排出削減**を目指しています。一人あたりの**食品ロスの半減**、生産やサプライチェーンにおける**フードロスの削減、発生量の削減や再生利用（リサイクル）・再利用（リユース）**による**廃棄物の削減**、**持続可能性に関する定期報告、浪費的な消費を推奨する補助金・化石燃料に対する補助金の合理化**など、取り組みの領域は非常に多岐にわたります。近年は、**海洋プラスチックごみ**の発生も大きな問題となっており、**ペットボトル水平リサイクル率の向上**も大きな課題です。**エシカル消費**は、国の消費者基本計画において、「**地域の活性化や雇用**」なども含む、人や社会・環境に配慮した消費行動」とされています。消費者へ環境に配慮した商品であることを示す**環境ラベリング制度**は国際標準化機構（ISO）や環境省がガイドラインを定めています。企業も**CSR調達**により持続可能な成長につなげています。

温室効果ガスの 排出量を知る

SDGs 13.2 / GRI 302,305



ミッション

JFA事業全体の温室効果ガス排出量を算定
カーボンニュートラル実現のための課題を検討

目標

気候変動の緩和への対応

温室効果ガスの算定方法の確立

削減・オフセットの課題の検討

ハイライト

JFAでは、2021年1月の天皇杯JFA全日本サッカー選手権大会の第100回大会決勝戦および同年12月の第101回大会決勝戦の温室効果ガス排出量を算定し、2022年度は東京都市大学伊坪徳宏研究室の協力を得て、コロナ禍の影響を受ける前の2019年度における、JFAの組織全体を対象とした温室効果ガス（GHG）排出量の算定を初めて実施しました。

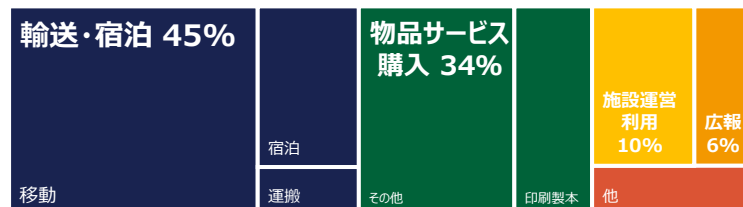
現在、2024年度の排出量分析を行い、算定方法の確立を目指しています。スポーツ界全体での環境への取り組みは様々な形で行われていますが、温室効果ガスの算定方法の確立は大きな課題となっています。

主な指標

JFA全体の排出量（GRI-305）

2019年度 **3.3万** t-CO₂e
(2023年度に調査を実施)

JFAの組織全体における温室効果ガス排出量インベントリ



算定方法等の詳細については「JFAサステナビリティレポート2022-23」をご参照ください。
2024年度の算定結果は、後日JFA公式サイト上に掲載します。

政府目標

2050年 **カーボンニュートラル**

今後に向けて

サプライチェーン全体を通じたあらゆるレベルでの
温室効果ガス削減の取り組みの継続・進展

気候変動の影響を 最小限に

SDGs 3.9,11.5,11.7,13.1,13.3／GRI 401,403,416



ミッション

気候変動への適応

熱中症による不幸な事故を減らす

目標

熱中症による事故を減らす

大会等における暑熱対策の徹底

日常生活を含む熱中症予防の啓発

ハイライト

熱中症は、気温や湿度などの環境条件に加え、体調や慣れなども影響し、気温がそれほど高くない日でも起こります。近年は、気候変動による地球温暖化の影響により、運動の場面に限らず日常生活でも熱中症のリスクが高まっています。

政府は2023年5月30日、気候変動適応法に基づき「熱中症対策実行計画」を閣議決定し、2030年に**熱中症による死亡者数**を過去5年間の平均である1,295人から**半減**を目指すという目標を定めました。この計画において、事業者は消費者等の熱中症予防につながる事業活動の実施や労働者の熱中症対策を、国民は自発的な熱中症予防行動や周囲への呼びかけ、相互の助け合いの実施を行う役割があるとされています。

JFAでは、2024年5月に「熱中症対策ガイドライン」を改訂しました。ガイドラインでは、公式戦等における具体的な対策を示しています。また、11月には「JFA主催・管轄の夏季大会・リーグ戦・フェスティバル等の開催方針」を定め、2025年度以降JFAが主催する大会等を7月・8月に原則開催しないことを決めました。

主な指標

熱中症対策（GRI-401,403,416）

JFAスタッフについての事故件数（GRI403-9）

JFA主催大会等における事故件数（GRI416-2）

政府目標

2030年 約**650**人以下
2024年 2,000人以上（速報値）

今後に向けて

熱中症対策のさらなる啓発
事故件数の減少に向けた対策

差別や暴力のない自由で平等なスポーツの世界を一緒に築いて年齢・性別・障がいの有無等に関係なく輝ける社会をつくろう

なぜ重要なのか？

国連は、人権の享受のために特別の保護を必要とする女性、子ども、障がい者、移住労働者とその家族、難民、少数者その他の脆弱な立場にある人々に対応した様々な人権法を整備してきました。人権は、「だれも取り残さない」というアジェンダのキーワードに象徴されるように、SDGsのすべてのゴールに盛り込まれており、必ず考慮されるべき重要な課題となっています。

具体的には、**ゴール10「人や国の不平等をなくそう」**において、障がいの有無にかかわらず誰もが平等に生きる共生社会の実現を含んだ平等権が全般的に取り上げられているほか、**ゴール1「貧困をなくそう」**では生存権、幸福追求権が、**ゴール5の「ジェンダー平等を実現しよう」**においては男女平等と女性のエンパワーメントが個別のゴールとして改めて強調されており、いずれもスポーツが貢献できる領域です。

JFAでは「**アクセス・フォー・オール宣言**」を行い、誰もがサッカーにアクセスできる持続可能な機会の提供を目指す方針を表明しました。

16 平和と公正をすべての人に



平和と公正をすべての人に

スポーツには、立場や背景の違いを越えて人々が理解し合い、友好と親善を促進し、平和に貢献するという重要な役割が期待されています。そして、スポーツの場において差別、暴力、暴言、ハラスメントなどは決して許されるものではなく、「**セロトランス（不寛容）**」の姿勢が求められます。

また、競技団体においては、すべての人が法の下に平等であるという原則に基づき、公正かつ透明性のあるルールに則った運営（**法の支配**）が求められます。懲罰などの「**救済措置**」は、業務執行部門から独立した公正・中立な立場によって判断される必要があり、誰もが平等に手続きを受ける権利（**司法アクセス**）を保障しなければなりません。

これらの取り組みは、人権擁護（**アドボカシー**）の中核をなすものであり、国連が定めた「ビジネスと人権に関する指導原則」にも明記されています。

1 貧困をなくそう



貧困をなくそう

貧困には、最低限の日常生活もままならない「**絶対的貧困**」と、その国の文化水準、生活水準と比較して困窮した状態である「**相対的貧困**」という概念があります。日本では、相対的貧困の割合を半分にし、格差をなくすることが大きな目標です。また、**子どもの貧困**も大きな問題となっています。自覚がない場合や、支援を求めづらい状況もあり、身近にあるにもかかわらず**見えにくい社会問題**です。無料で参加できるイベントなどは、子どもたちの未来を応援することにつながります。

10 人や国の不平等をなくそう



人や国の不平等をなくそう

人の不平等をなくすための中心的な考え方は、「**DEI（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン）**」です。年齢、性別、障がいの有無、人種、民族、出自、宗教、経済的地位、その他**その人が置かれている状況にかかわらず**、すべての人々が社会的にも経済的にも**実質的に公平で、排除されることなく**包摂されている状態になることをいいます。スポーツは誰もがすぐに仲良く楽しむことができるツールとして、共生社会実現に影響を与え（**エンパワーメント**）促進すること（**プロモーション**）ができます。

5 ジェンダー平等を実現しよう



ジェンダー平等を実現しよう

世界人口の半数を占めるのは女性です。**ジェンダー差別**がなくなれば、途上国を中心に世界で起きている、性差別に苦しむ人々を救えるだけでなく、**女性の社会参画**により、各国の経済成長の拡大と社会開発の促進に繋がります。**スポーツに携わっている女性**は、ジェンダーに基づくステレオタイプを打破し、人々の共感を得られるロールモデルとなり得る存在で、男性と女性が平等であると証明し、ジェンダー平等を実現する役割を担います。

セーフガーディングの推進

SDGs 4.7,4.a,5.2,16.1,16.2／GRI 406,410



ミッション

暴力・暴言などを一切許さない「ゼロトレランス」
多くの人々がサッカーの楽しみを享受できるよう
指導者・関係者のつながりをつくる

目標

誰もが安心してサッカーを楽しめる環境づくり
(人権デュー・デリジェンス)

JFAセーフガーディングポリシーの徹底

ウェルフェアオフィサー制度の確立

ハイライト

スポーツには本来、暴力や差別は不要です。JFAは毎年9月に「JFAリスペクト・フェアプレーデイズ」を設定し、リスペクトの大切さや、差別や暴力・暴言のない世界を目指す取り組みを行っています。

2024年度のシンポジウムでは、「暴力暴言の根絶 ～セーフガーディングポリシーをクラブの日常へ～」と「～アクセス・フォー・オール宣言～」をテーマに、取り組み状況の報告とパネルディスカッションを行いました。

9月から12月にかけては、ウェルフェアオフィサージェネラル研修会を開催。現在1,268人が認定され、各種大会や各クラブなどにおいて、活動しています。

▶ リスペクト・フェアプレー
<https://www.jfa.jp/respect/>



主な指標

ウェルフェアオフィサージェネラル **1,268人**

今後に向けて

加盟団体（都道府県サッカー協会等）における取り組みの推進
JFAによる取り組み（ウェルフェアオフィサー研修会）の充実

スポーツの 体験機会をみんなに

SDGs 4.1,4.5,4.7,10.2,11.7 / GRI 401,413



ミッション

生まれ育った環境にかかわらず
夢や希望を持てる社会をつくる

目標

子どもの体験機会の格差をなくす

無料体験の機会を増やす

子どもの体験機会を作る団体とつながる

子どもの声を聴き、誰一人取り残さない

ハイライト

子育てや貧困の問題は家庭のみの責任ではなく、社会全体で解決を目指すことが重要です。学校でも家庭でもない居場所づくりや子どもたちに勇気や希望や感動を与える、無料で参加できる取り組みを行ってきました。2019年からは「こどもの未来応援国民運動」へ賛同し、この取り組みをより一層推進しています。

今後は、子どもたちの声を大切にしながら、様々な子ども支援の団体とも連携し、スポーツの力を全国で活かしていくことが求められています。

主な指標

子どもを対象とした無料で参加できるプログラムの実施（GRI-413）

JFAユニクロサッカーキッズ 17回
JFAマジカルフィールド Inspired by Disney 11回
JFA×KIRIN キリンファミリーチャレンジカップ 2回
JFA・キリン ビッグスマイルフィールド 4回
JFA×くみずほ BLUE DREAM みらいスクール
JFA×MS&AD なでしこ”つぼみ”プロジェクト
JFA 第47回全日本U-12サッカー選手権大会 応援企画 produced by TEAM BLUE
NO AWAY ACADEMY
ベビー & キッズ BALL TIME
JFA | ANESSA キッズイベント for ANESSA Sunshine Project
JFA Partnership for NOTO 夢キャンプ2024 with SAMURAI BLUE
JFA×文京 街とみんなの運動フェス ほか

経済的にサッカーをすることが難しい子どもたちのコミュニティとの連帯（GRI-413）

今後に向けて

子どもの声を反映した持続可能な運営の継続
子どもに関する支援団体との連携

女性のエンパワメント

SDGs 4.7,5.1,5.5,5.c / GRI 102-8,102-22,102-55,401,405



ミッション

女子サッカーを通じて夢や生き方の多様性にあふれ
一人ひとりが輝く社会を実現する

目標

女性のエンパワメント原則の取り組み推進

役職員等のジェンダーギャップ解消

ハイライト

サッカー界が一丸となって、ジェンダー平等に向けた様々な取り組みを行っています。2020年にJFAとWEリーグは、国連グローバル・コンパクトと国連女性機関（UN Women）による女性のエンパワメント原則（WEPS）に賛同し、署名しました。2021年にはWEリーグがスタートし、女性活躍社会の実現を目指して活動しています。

一方、JFAの登録者において女性が占める割合は、サッカー指導者が3.7%、サッカー審判員が5.6%と著しく低くなっています。なお、女性理事は2024年3月の改選で15人中6人となり、スポーツ団体がバナンスコードが求めている40%を満たしました。

▶ 女性のエンパワメント原則（WEPS）年次レポート

https://www.jfa.jp/women/pdf/women_empowerment_report_2024.pdf



主な指標

JFA役職員等の女性割合（GRI102-8,102-22）

理事	40%	女性6人／15人中
各種委員会委員	17%	女性17人／98人中
事務局管理職	17%	女性10人／56人中
事務局正職員	37%	女性76人／201人中

JFA登録者の女性割合（GRI102-55）

サッカー選手	6.1%	女性52,083人／834,423人中
サッカー指導者	3.7%	女性3,652人／97,446人中
サッカー審判員	5.6%	女性14,743人／276,735人中

グローバルジェンダーギャップ指数（WEF）

2024年度 **0.663** 118位／146カ国中

※ジェンダーギャップ指数は、世界経済フォーラム「Global Gender Gap Report 2024」（2023年6月11日発行）より

誰も取り残さない スポーツ環境

SDGs 4.7,5.1,5.5,10.2,11.7 / GRI 401.405.406,413,416

目標

スタジアムでの競技観戦におけるバリアをなくす

発達障がい等で大きな音が苦手でも
安心して観戦できるセンサリールーム運営

視覚障がいの有無にかかわらず試合を楽しむ
ことができる実況解説つきシートの販売

スタジアムにおけるバリアフリー調査の実施

ハイライト

アクセス・フォー・オール宣言を行い、誰もがサッカーにアクセスできる社会を目指す方針を表明しました。

天皇杯と日本代表戦においては、誰も取り残さない競技観戦環境づくりを目指して、様々な取り組みを行いました。3月からは、みずほフィナンシャルグループが「JFAインクルーシブプログラム」への協賛をスタート。視覚障がい者席、知的・発達障がい者席、車椅子席の設定や、プレマツチセレモニー、啓発動画の上映などを行いました。

天皇杯第104回JFA全日本サッカー選手権大会決勝戦では、東京藝術大学との連携によりセンサリールームを設置し、初めてチケット販売を実施しました。

▶ **アクセス・フォー・オール**
https://www.jfa.jp/about_jfa/accessforall/



主な指標

スタジアムでの競技観戦におけるバリアをなくす
(GRI 102-43,416-1)

視覚障がい者席、知的・発達障がい者席、車椅子席の設定 **5** 試合

TOYO TIRES CUP 2024 (1月1日@東京/国立競技場)
FIFAワールドカップ26アジア2次予選 兼 AFCアジアカップサウジアラビア2027予選
(3月21日@東京/国立競技場)
FIFAワールドカップ26アジア最終予選 (3次予選)
(6月11日@広島/エディオンピースウイング広島、9月5日@埼玉/埼玉スタジアム2002、
10月15日@埼玉/埼玉スタジアム2002)

センサリールーム・車椅子席の設定 **1** 試合

天皇杯JFA第104回全日本サッカー選手権大会
(11月23日@東京/国立競技場)

※このほか、すべての試合で車椅子席を設定

今後に向けて

各種パートナーとの連携強化



ミッション

スポーツにおいても誰も取り残さない
心のバリアフリーが広がる社会を作る



一瞬の感動を、一緒に感動に。－視覚障がい者席のご案内－

https://youtu.be/rvdKtTa0_5M



なにかお手伝いできることはありますか？

<https://youtu.be/P7fJHYju2qk>



各種啓発映像の作成

障がい者に対する理解促進と、スタジアム観戦時のバリアをなくすため、日本代表チームやサポーターと共に障がい者サポート啓発映像や視覚障がい者席の紹介映像を作成し、スタジアム等で放映を行いました。



スポーツの楽しさを感じられる
グラスルーツサッカーを広めて
心身ともに健康的でいつまでも
元気と笑顔溢れる人生を送ろう

なぜ重要なのか？

世界保健機関（WHO）憲章において、健康とは「病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態」とされています。
スポーツがより身近に、みんなのものになることによって、誰も取り残さずに幸せになれる環境を作り上げることができます。より多くの人が活動に参加することで、健康の重要課題に直接的に関連する**ゴール3「すべての人に健康と福祉を」**のみならず、あらゆるゴールの達成に寄与することができます。

3 すべての人に
健康と福祉を



すべての人に健康と福祉を

健康と福祉においては、**ユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）**や**高い保健医療へのアクセスの実現**の必要性が叫ばれています。世界人口の半分の約36億5千万人は、**基礎的な保健医療サービス**を、必要なときに負担可能な費用で受けることができません。これらの現状を、教育やスポーツ活動の機会を通じて、**多くの方々に認識してもらう**ことが重要です。

差別や虐待、いじめといった身体的・心理的に苦痛を与えるハラスメント行為はもちろん、大人たちの喫煙で生じた副流煙を吸い込んでしまう受動喫煙、飲酒による迷惑行為やトラブル発生などの防止、熱中症対策などはユニセフのファミリースポーツ安全保護宣言にも謳われています。運動不足は、喫煙、高血圧に次いで、病気による死亡を招く3番目の危険因子とされています。スポーツを継続し**「運動不足」を解消**することで、**生活習慣病、高齢者の運動器症候群（ロコモ）、認知症**の予防につながります。こうした全国的、世界的な**健康危険因子を早期に警告し、緩和し、管理**することも、このゴールのターゲットの一つです。

このほかのスポーツの課題は、健康に関連する領域ではあるものの、別の重要課題やSDGsの課題に直接的に関連します。

人権：貧困問題への対応（ゴール1）、**年齢、性別、障がいの有無などに関わりなく一緒に**（ゴール10）

教育：若年層へのアプローチ（ゴール4）、**質の高い指導者の養成**（ゴール4）など。





だれもが・ いつでも・どこでも

SDGs 3.4, 3.8, 10.2, 11.7 / GRI 413



ミッション

だれもが、いつでも、どこでも
サッカーやスポーツを身近に楽しむことで
幸せになれる環境をつくる（ウェルビーイングの実現）

目標

だれもが、いつでも、どこでも
サッカーを身近に楽しめる環境
（グラスルーツ・フットボール）

地域のコミュニティづくりへの貢献

新しい一歩を応援するフェスティバル

ハイライト

JFAは2014年5月15日に「JFAグラスルーツ宣言」を行いました。
グラスルーツサッカーを通じて、スポーツを一部のプロ・エリートによるものに
留めることなく、だれもが、いつでも、どこでも、もっと身近にスポーツを楽し
むことができ、幸せになれる環境を作り上げることを目指しています。

JFAでは、特にキッズ・女子・シニアの重点3領域において、これまでサッ
カーを経験したことがなかった人々や、年齢や障がいなどでサッカーを楽し
むことを諦めていた人々に対するウォーキングフットボールやファミリーサッ
カーフェスティバルなどの取り組みを新たに始めています。

JFA公式アプリ「JFA Passport」を利用して、一人ひとりに合ったイベント
を見つけ、参加できるようにするデジタル施策は、2050年までにサッカー
ファミリーを1,000万人にするという普及目標達成のための「メンバーシ
ップ」の一環としても積極的に推進しています。



主な指標

JFA Passport登録会員数（2024年12月末）

567,820人

JFA Passportを利用した普及イベントへの申込（2024年）

10,579人

今後に向けて

魅力的なフェスティバルの開催（パートナーとの連携）

運営を支える人材の養成（コーディネーター養成）

地域のクラブなどでの継続的な場作り（ウォーキングひろば等）

スポーツで社会をよくするため
必要な知識や技術を身につけて
サッカーが持つ魅力を活かした
持続可能な未来を築いていこう

なぜ重要なのか？

教育の重要課題には、指導者や審判員などサッカーそのものを支える人材養成と、年齢や障がいの有無、ジェンダーなどに配慮した環境の整備、そして持続可能な社会の発展のために必要な知識や技術を身につける教育（ESD）などが含まれ、いずれも**ゴール4「質の高い教育をみんなに」**に直接関連しています。ESDは、その内容によって他の重要課題やそのゴールにも関連しています。

4 質の高い教育をみんなに



質の高い教育をみんなに

教育は、**SDGsのすべてのゴールのベース**になるものです。ユニセフの報告によると、世界中には、女性であること、貧困世帯や少数民族、障がいがあるといった理由だけで学校に通えず、教育を受けられない子どもたちが1億7,500万人以上いるとされています。

また、ユネスコの調べでは、読み書きができない大人は約7億5千万人いて、そのうち女性が3分の2を占めるとされています。

すべての人が性別に関係なく、無理なく払える費用で、技術や職業に関する教育を受けられるようにすることが必要です。はたらきがいのある人間らしい仕事（ディーセントワーク）について、新しくビジネスを始められるように、**仕事に関係する技術や能力**を備えた若者や大人を増やすことが求められています。

運動と学力は、相関関係にあることが知られています。小さいときから、**遊びながら動きを覚え、成功体験を得る**ことは、その先の人生にもよい影響を与えます。運動をするきっかけは様々ですが、学校での授業や部活動のほか、学校以外でのクラブやサークル、そしてチームで、だれもが**質の高い指導**を受けられることはとても重要です。そこには、**差別や暴力のない安全な指導環境**が必要となってきます。これらは、すべて「教育」のゴールと密接に関係するものです。



サステナブルな 未来への貢献

SDGs 4.7 / GRI 413



ミッション

夢を持つことや努力することのすばらしさ
サッカーに関わることの喜びを新しい形で届ける

目標

JFAこころのプロジェクト「夢の教室」の開催

学校（自治体）とのさらなる連携

ハイライト

JFAこころのプロジェクト「夢の教室」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンライン中心となっていたが、現場での活動も徐々に再開しました。また、2020年度に始動したオンライン形式も継続させ、学校や地域の状況に合わせて開催。子どもたちに夢を持つことや、その夢に向かって努力することの大切さを伝えています。

▶ JFAこころのプロジェクト
https://www.jfa.jp/social_action_programme/yumesen/



主な指標

2023年度 2024年度

JFAこころのプロジェクト

1,529回 1,592回

今後に向けて

持続可能性に配慮した各種人材育成事業の実施



持続可能性に配慮して行動する
地域の人々の様々なつながりを
サッカーを通じてつくることで
私たちの住みやすい街を守ろう

なぜ重要なのか？

国連によると、世界人口に占める都市人口の割合は、現在の55%から2050年に68%まで拡大すると予測されています。日本においては、世界のどの国も経験したことのない超高齢社会を迎え、2050年には30万人以上の人口規模を維持できない都市圏が相当数現れることが見込まれています。**ゴール11「住み続けられるまちづくりを」**は、こうした現状を踏まえ、地方行政との協働などによる地域社会のつながりと安全の確保、イノベーションと雇用促進などを目指しています。環境、人権、教育、健康といった他のすべての重要課題とそのゴールは、地域の課題と密接に関連しており、地域におけるSDGsの取り組みが全国規模、地球規模の課題解決の成否を握っているといっても過言ではありません。



住み続けられるまちづくりを
都市には、人口、経済活動、社会的・文化的な交流が集中しており、日本においては少子高齢化、地域人口減少と地域経済縮小といった持続可能性の問題が生じています。国は、こうした課題に対して、2050年を見据えた長期的な国土づくりの理念や考え方を示した「国土のグランドデザイン2050」の中で、**多様性（ダイバーシティ）、連携（コネクティビティ）、災害への粘り強くなやかな対応（レジリエンス）**を重視し、**多様なステークホルダーとともに取り組むこと**としています。
また、一方で**地方創生SDGs**では、**くらしの基盤の維持・再生**を図り、**持続可能なまちづくり**や**地域活性化**の取り組みをスピード感を持って進めるためにSDGsの考え方を利用しています。



サッカーファミリーの力を被災地へ

SDGs 3d,11.5,11.b,13.1,13.3,17.17 / GRI 203,302,306,413



ミッション

過去の災害におけるサッカーファミリーの経験を活かし
今後の災害におけるよりよい復興のために備える

目標

復興支援活動

防災・減災の取り組み

ハイライト

JFAでは、東日本大震災や熊本地震などの大規模災害における被災地の一日も早い復興を願って、サッカーを通じた復興支援活動を実施してきました。2022年には、「復興支援委員会」を「防災・復興支援委員会」へ改称し、SDGsの11番のゴールである「住み続けられるまちづくりを」のターゲットの一つとして示されている「仙台防災枠組2015-2030」を念頭に、防災・減災をミッションに加え、サッカーのコミュニティやつながりを生かした取り組みを始めています。

2024年1月1日に発生した能登半島地震と9月に発生した豪雨災害においては、早期に現地で自治体やお住いの皆さんの声を直接お聞きし、被災地の学校再開に合わせた子どもたちのこころのケアや、ウォーキングフットボール（JFA・キリン ビッグスマイルフィールド）による地域コミュニティ支援などを速やかに開始し、現在も被災地域全体で継続しています。

▶ 能登半島地震復興支援活動
https://www.jfa.jp/social_action_programme/relief_efforts/contribution_noto/



主な指標

能登半島地震復興支援活動の継続

子どもたちのこころのケア（アスリート訪問） **125**回

JFA・キリン ビッグスマイルフィールド **4**回

復興支援マッチ **1**回

今後に向けて

防災・減災の取り組み・備え、災害直後の迅速な対応



サッカーを輪島で出来ないから
金沢に残るか輪島に残るか家族ですごい悩んで

支援の輪を広げよう | がんばろう能登！サッカーファミリーのチカラをひとつに！

3/7（木）能登地方の小学生年代のサッカークラブ3チームを対象に、オンラインイベントを行いました。
元サッカー日本代表の永島昭浩さんMCのもと、子供達は元気に身体を動かし、積極的に手を上げて森保監督へ質問
をしていました。被災地の状況と合わせて、是非ご覧下さい。（2024年3月15日配信）

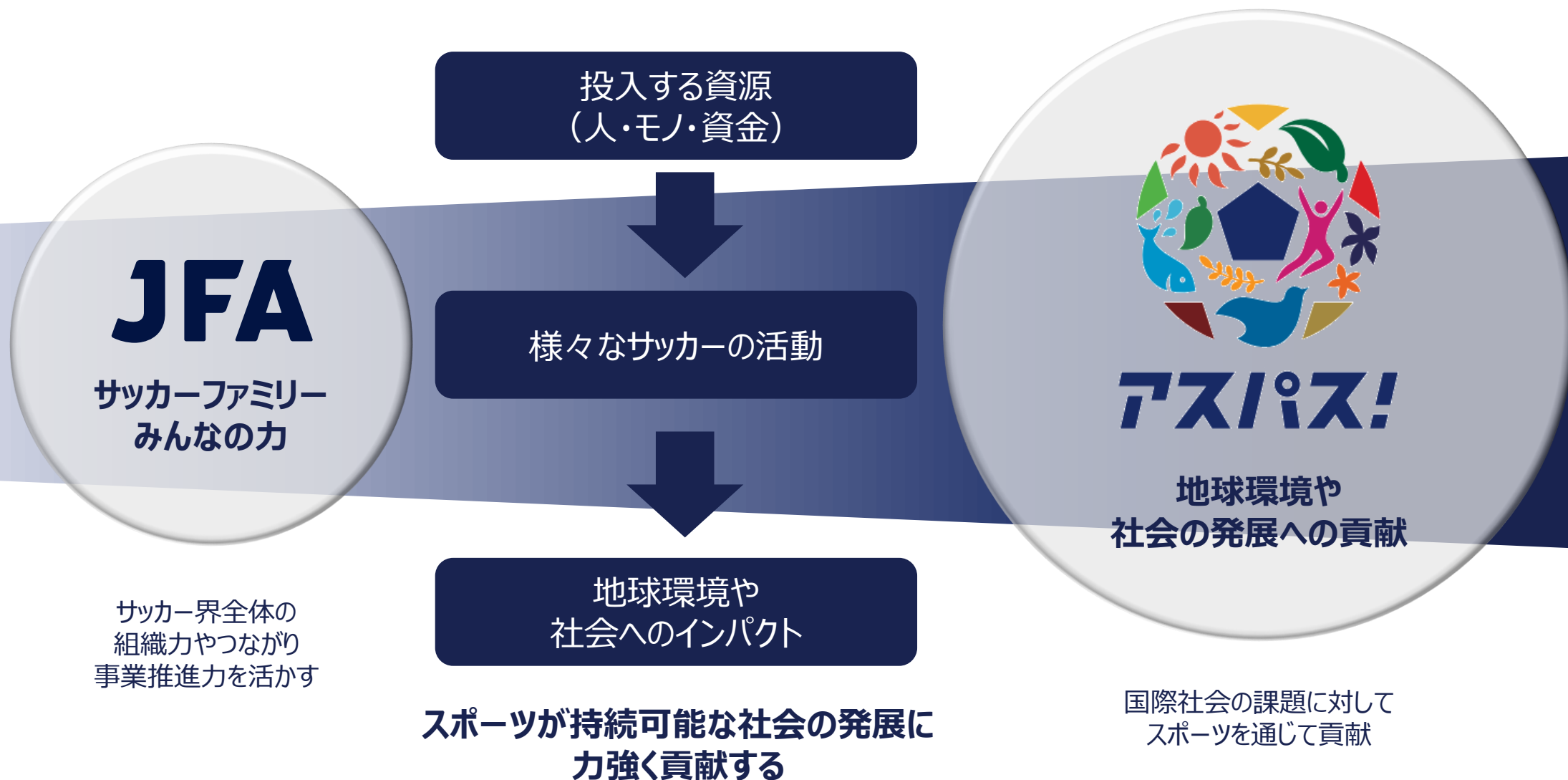


皆さんのことも応援してますので 元気でお過ごしください

能登半島のいま 森保監督、現地へ | がんばろう能登！サッカーファミリーのチカラをひとつに！

2024年1月に発生した令和6年能登半島地震を受けて、日本サッカー協会（JFA）は復興支援プロジェクトを立ち上げて
支援活動に取り組んでいます。9月の記録的豪雨による被害もあり、能登半島への継続した支援が求められています。
今回、森保 — SAMURAI BLUE（日本代表）監督が10月20日、21日の両日、現地訪問した際の様子をお届けします。
（2024年11月28日配信）





サッカーの価値を可視化する

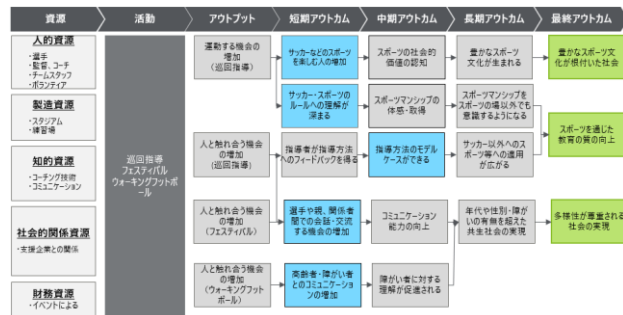
JFAの事業の成果を測り持続可能性を高める 社会的インパクト評価とSROI

JFAの活動に関する社会的価値分析

JFAの活動全体のうち、特にJFAの理念・ビジョンとの関連性が高い、強化・普及・社会貢献の各領域から、代表的な事業を選択し、JYDパートナー（当時）のデロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社の協力を得て、SROIの手法を用いてその社会的価値を分析しました。データの取得範囲の制約があったため、今後、間接的・波及的効果の検討が行われることで、さらに網羅的に定量化できる余地がありますが、現時点で算定可能な、定量的な社会的インパクトの評価・分析を行うことができました。様々なステークホルダーを巻き込んだ評価が継続して行われることにより、今後さらに透明性の高い効率的な事業運営を実施することができると考えられます。

普及事業における「ロジックモデル」の例

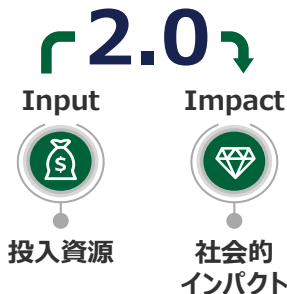
いくつかのマテリアル（重要）かつ測定可能なアウトカム（成果）の指標について評価を行いました。



日本代表戦



普及事業



U10-12リーグ



女子高校選手権



グリーンプロジェクト



あくまでも今回の分析範囲において算定した数値となるため、実際には各事業においてより高い成果を生み出している可能性があります。

社会的価値分析の前提

- 分析対象
 - JFAが取り組む事業活動（日本代表戦、普及事業、U10-12リーグ、女子高校選手権、グリーンプロジェクト）について、社会的価値の分析を実施
- 分析手法：社会的投資収益率法（Social Return on Investment）
- 分析期間：2022年1月から12月までの1年間（日本代表戦は2019～2022年の4年間）
- 実施した手続き：
 - JFAの取り組む事業活動（日本代表戦、普及事業、U10-12リーグ、女子高校選手権、グリーンプロジェクト）に関するインタビューおよびロジックモデルの構築
 - 一部のアウトカムに関するアンケートの実施
 - その他実績等に関するデータはJFAが提供したデータおよび公開情報を使用

分析結果の考察

- 日本代表戦**：ワールドカップの開催を通じ幅広い人々に、普段の生活でのモチベーション向上等の価値をもたらしたことにより、SROIは3.4倍となった。
- 普及事業**：ボランティア活動を通じて参加者が得られる価値などが一部可視化できなかったものの、SROIは2.0倍となった。
- U10-12リーグ**：生活圏でのリーグを通じて、子どものみならず、家族関係の改善等にも影響が見られることから、SROIは3.4倍と比較的高い値となった。
- 女子高校選手権**：女子サッカーの認知度向上や、高校生の人間関係構築につながるなどのインパクトが大きく、SROIは2.3倍となった。
- グリーンプロジェクト**：サッカー施設整備に関するインパクトが可視化された一方で、そこから派生的に生じる施設利用者間におけるコミュニティ促進に関する価値の可視化などが困難であったことから、SROIは1.2倍にとどまった。

仲間とつながる



価値共創を推進する新しいパートナーシッププロジェクト

JFA Partnership Project for DREAM



実践例

▶ JFA Partnership for Dream
<https://www.jfa.jp/partnership/>



新たなパートナーシップ制度、価値共創活動推進に向けたパートナー企業とのワークショップを開催

日本サッカー協会（JFA）は2023年5月11日（木）、今春に刷新した新たなパートナーシップ制度「JFA PARTNERSHIP PROJECT for DREAM」でコンセプトとして掲げている「価値共創活動」の推進に向け、パートナー企業と共に初めてのワークショップを開催した。会場の高円宮記念JFA夢フィールドには各社から合わせて約40名の方々にお集まりいただき、交流や意見交換を行った。

第一部ではパートナー企業の参加者に加わり、スペシャルゲストとして元SAMURAI BLUE（日本代表）の福西崇史さん、坪井慶介さん、播戸竜二さん、元なでしこジャパン（日本女子代表）の海堀あゆみさん、原菜摘子さんがウォーキングフットボールをプレーし、パートナー企業の皆様との交流を深めた。

続く第二部ではJFA専務理事（当時）の宮本恒靖より、新しい日本代表のスローガン「夢への勇気を。」や今回のパートナーシップ制度にかける想いをお話し、パートナーシップ制度の概要や、JFAが考える価値共創活動のコンセプトである『三方良し』について説明した。また海外の事例も共有しながら、事前のアンケートで要望が多かった取り組み後の効果測定方法など、今後の活動推進につながる情報を参加者で共有した。第二部からは北澤豪さんも参加し、グループディスカッションも行った。

仲間とつながる



サッカーファミリーの夢をつなぐクラウドファンディング

JFA CROWD FUNDING つながれみんなの夢へ。



JFAと、国内最大級のクラウドファンディングサイトを運営する株式会社CAMPFIREは2023年9月20日、「JFAサポーター契約」を締結し2023年12月6日より新たに「JFAクラウドファンディング」サービスを開始した。本事業は、JFAとCAMPFIREの「JFAサポーター契約」に基づく事業の一環で開始するもので、JFAがプロジェクトを起案し、多くの支援者（団体・個人）を募って事業を実行するほか、JFAがプラットフォームとなり、47都道府県サッカー協会や各種連盟、関連団体、チーム・スクール、サッカー関連事業者（イベント・施設）、あるいは選手・指導者・審判員といった個人などにクラウドファンディングの場を提供することでサッカーファミリーの皆さんが活用できるサービスを広げていくものである。本事業を通して、今まで「資金がない」「仲間がいない」と諦めていた人にとって取り組みに挑戦するチャンスになることを期待している。

実践例

▶ JFAクラウドファンディング

https://www.jfa.jp/about_jfa/news/00033



JFAは2020年に千葉県千葉市に代表チームの強化拠点となるJFA夢フィールドを建設した。天然芝2面、人工芝ピッチ、フットサルアリーナ、ビーチサッカーピッチ（通称、ピッチ・カリオカ）を持つこの施設は、各カテゴリーの代表チームがトレーニングを行うほか、レフェリーらも日々のトレーニングで利用している。天然芝のピッチは、選手が最高のコンディションでトレーニングができるよう手入れされており、年間30～40tもの芝が刈り取られている。現在、刈り取られた芝は廃棄されているが、これに樹脂を練りこむことによって新たな素材に生成される。そこで、この技術を利用して天然芝を「グリーンカード」(*)に生まれ変わらせる事業をクラウドファンディングを活用して実施。この技術で作られたグリーンカードを全国各地で活動するチームなどに配布し、フェアプレー、リスペクトを推し進めるとともに、廃棄物を有効活用することで循環型のサイクルの確立を目指す。※グリーンカード：U-12（4種）年代以下の大会や試合などで導入しているもので、リスペクトあるプレーや行動をした選手らに対してグリーンカードを提示しフェアプレーやリスペクト精神を広げていこうというもの。

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン



サッカーの普及に努め、
スポーツをより身近にすることで、
人々が幸せになれる環境を作り上げる。



サッカーの強化に努め、
日本代表が世界で活躍することで、
人々に勇気と希望と感動を与える。



常にフェアプレーの精神を持ち、
国内の、さらには世界の人々との
友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAの約束2050

2050年までに、すべての人々と喜びを分かちあうために、ふたつの目標を達成する。

1. サッカーを愛する仲間＝サッカーファミリーが1,000万人になる。
2. FIFAワールドカップを日本で開催し、日本代表チームはその大会で優勝チームになる。



目指す姿



**サッカーの持つ多面的な
価値を用い、持続可能な
社会に貢献している**

ポイントとなるアクション



インクルージョン/アクセス・フォー・オール：
誰もがサッカーファミリーの一員として活躍



脱炭素化：
事業における炭素排出量の測定・削減



心と体の健康・ウェルビーイング：
関連委員会と連携した情報・施策の展開



スポーツの場の継続提供：
部活動の地域移行支援と教育行政連携

社会課題への挑戦



目指す姿
VISION (中期計画より)

サッカーの持つ多面的な価値を用い、持続可能な社会に貢献している

サッカーを起点とした行動変容の創出

～JFA/加盟団体から、サッカーファミリーへ、更には日本社会全体で行動変容が生み出している状態～



状態目標
GOAL

価値観
VALUE

エンジョイ プレーヤーズファースト

RESPECT
大切に思うこと

リスペクト

サッカーファミリー全体で
すべての人、物を大切に思うこと

フェア チャレンジ

推進の柱
HOW

外部連携

サッカーの“繋ぐ力”を活用



相互シナジー



情報発信

サッカーの“勇気づける力”を活用

重要課題
MATERIARITY

活動例
ACTIVITY



環境

サステナブルサポーターズ
温室効果ガス排出量算定

人権

セーフガーディング
アクセス・フォー・オール

健康

グラスルーツ推進
ウォーキングフットボール

教育

夢の教室
体育サポート

地域

防災・復興支援
グリーンプロジェクト



重要課題	注力テーマ（2025年6月時点）	
 環境	 ①気候変動の緩和対策	
	 ②熱中症の予防	
 人権	 ③暴力・差別の根絶	  
	 ④子どもの体験格差解消	
	 ⑤ジェンダー平等	
	 ⑥共生社会の実現	
 健康	 ⑦健康のコミュニティづくり	
 教育	 ⑧夢を描く教育	
 地域	 ⑨地域の復興支援と防災・減災	

推進の柱

目指す姿





https://www.jfa.jp/about_jfa/value_creation_story/organisational_basis.html



常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々との友好を深め、国際社会に貢献する。



ヨーロッパ

- イングランドサッカー協会
- ロシアサッカー連合
- ドイツサッカー連盟
- スペインサッカー連盟
- フランスサッカー連盟
- デンマークサッカー連盟
- FCバイエルン・ミュンヘン

中央アジア

- ウズベキスタンサッカー連盟
- イランサッカー連盟

東アジア

- モンゴルサッカー連盟
- ホンコン・チャイナサッカー協会

西アジア

- オマーンサッカー協会
- カタールサッカー協会

東南アジア

- タイサッカー協会
- ベトナムサッカー協会
- インドネシアサッカー協会
- ミャンマーサッカー連盟
- ラオスサッカー協会
- マレーシアサッカー協会
- シンガポールサッカー協会

日本国内

- 国税庁 (広報大使)
- 国立大学法人東京大学
- 国立大学法人東京藝術大学
- 文京区
- さいたま市
- 日本サッカーを応援する自治体連盟
- JFAこころのプロジェクト開催自治体

南米

- 南米サッカー連盟
- ベネズエラサッカー連盟
- パラグアイサッカー協会
- アルゼンチンサッカー協会

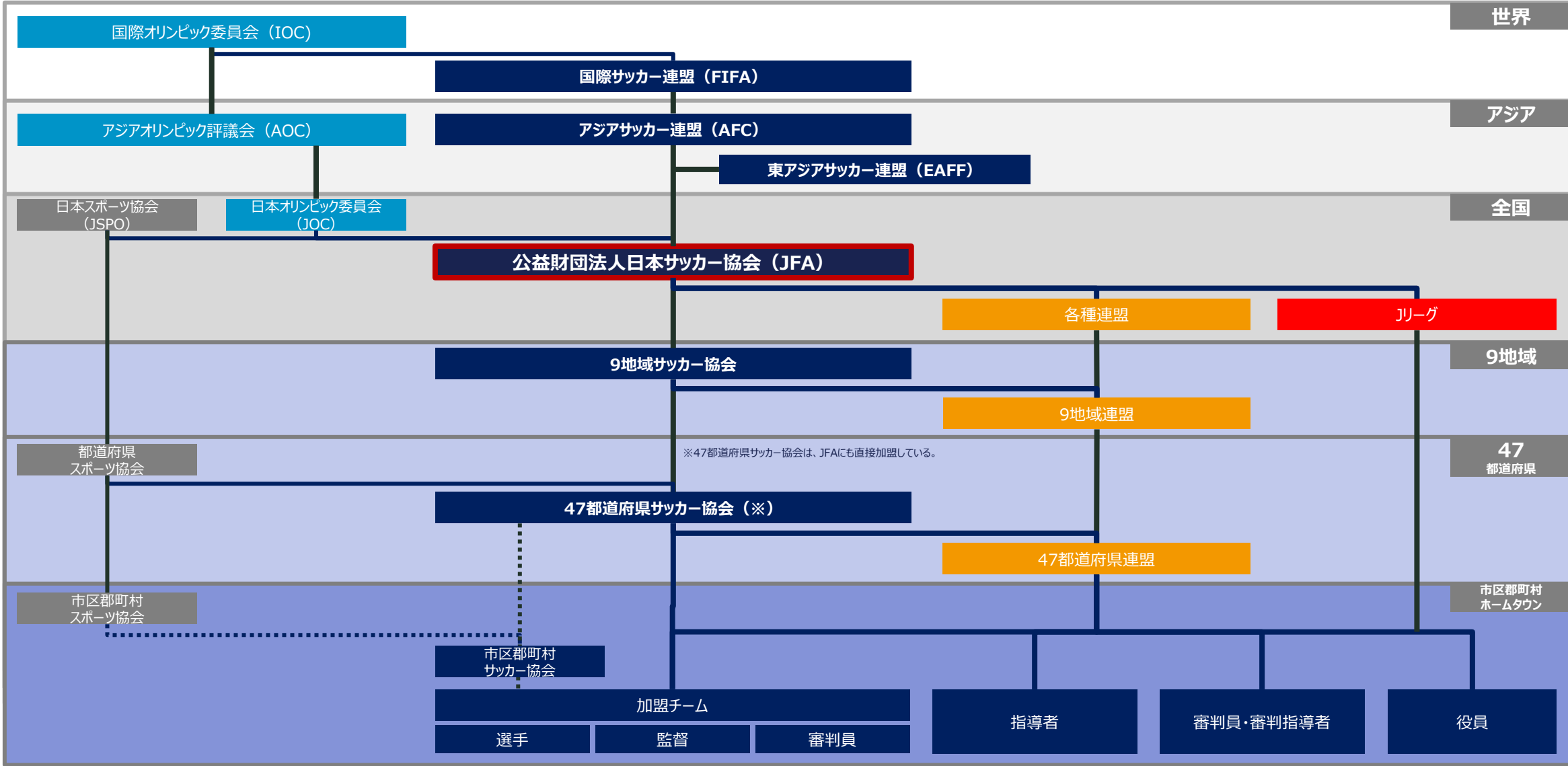
参画している主な国際イニシアチブや国際協力のためのパートナーシップ

- 国連グローバルコンパクト (UNGC)
- 国連児童基金 (ユニセフ) 子どもの権利とスポーツの原則
- UNGC・国連女性機関 女性のエンパワーメント原則 (WEPs)
- 国連 フットボール・フォー・ザ・ゴールズ
- 国際交流基金
- 独立行政法人 国際協力機構 (JICA)
- スポーツ・フォー・トゥモロー
- 子どもと青少年の デジタルウェルビーイングに関する イニシアチブ

全国的なキャンペーンへの協力

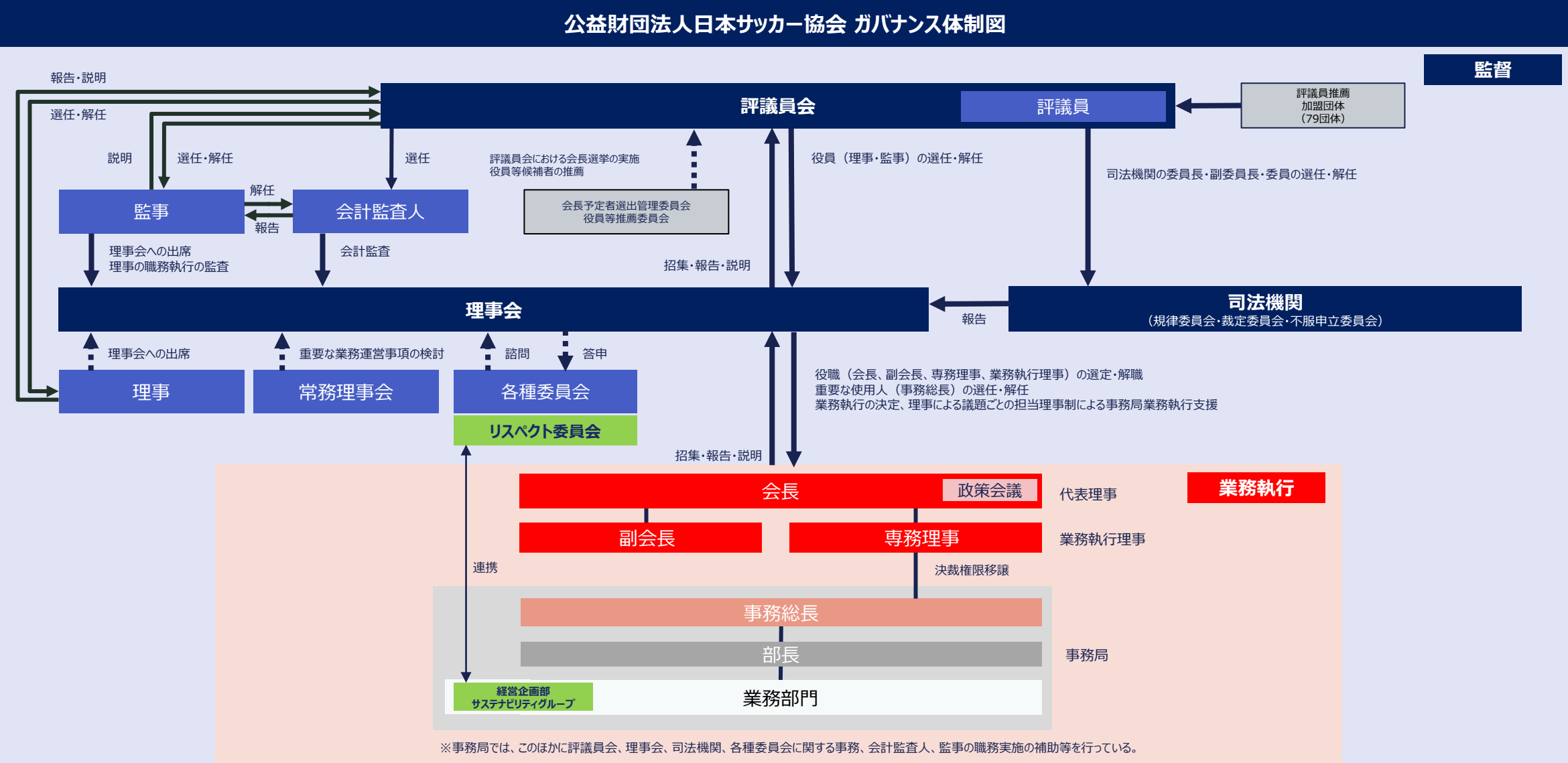
- 寄付月間
- 子どもの未来応援国民運動
- ピンクリボン運動

ロシアサッカー連合、ドイツサッカー協会、FCバイエルン・ミュンヘン、イランサッカー連盟、モンゴルサッカー連盟、ホンコン・チャイナサッカー協会、タイサッカー協会、マレーシアサッカー協会、ベネズエラサッカー連盟、パラグアイサッカー協会は、2024年度中に期間満了となりました。





※2024年12月末時点





▶ GRI対照表
https://www.jfa.jp/about_jfa/esg_data.html



開示事項	分類	ID	報告要求事項	内容	関連ページ
102 一般開示事項	1.組織のプロフィール	102-1	組織の名称	公益財団法人日本サッカー協会（JAPAN FOOTBALL ASSOCIATION）	組織概要
		102-2	活動、ブランド、製品、サービス	日本サッカー界を統括し代表する団体として、サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献することを目的としている。 公益財団法人の公益目的事業として、サッカー普及振興事業を行っており、日本代表関連事業、競技会開催事業、指導普及事業、社会貢献事業、ミュージアム運営事業、災害復興支援事業、JFAナショナルフットボールセンター事業を行っている。また、収益事業としてJFAハウスの賃貸事業、その他の事業として登録・オンラインシステム関連事業を行っている。	JFAの概要 定款第3条 事業計画・事業報告
		102-3	本社の所在地	主たる事務所：〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル	組織概要
		102-4	事業所の所在地	日本国内に2ヶ所の事務所（JFAハウス、JFA夢フィールド）を設け、他に4ヶ所のJFAアカデミー（福島、熊本宇城、堺、今治）と1ヶ所のJFAメディカルセンター（福島）を設置している。	価値創造ストーリー：社会の発展への貢献：施設・拠点
		102-5	所有形態および法人格	公益財団法人 （一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（法人法）に基づく一般財団法人であり、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（認定法）に基づきサッカー普及振興事業を公益目的事業と位置付けて公益法人としての認定を受けている。）	組織概要
		102-6	参入市場	日本国内及び海外で活動する公益・非営利セクターで、サッカーを愛する仲間（サッカーファミリー）を対象に事業を実施している。	定款第4条第2項 事業計画・事業報告
		102-7	組織の規模	総従業員数：250人（常勤役員2人、正職員196人、臨時雇用職員54人含む） 総事業所数：3ヶ所（JFAハウス、JFA夢フィールド、JFAメディカルセンター）※関連施設：JFAアカデミー4ヶ所 経常収益：214億円	価値創造ストーリー：ひと目で分かるJFA
		102-8	従業員およびその他の労働者に関する情報	正職員：196人（男性126人、女性70人（35%））臨時雇用職員：54人（男性8人、女性46人（85%）） ※従業員はJFAハウス、JFA夢フィールド、JFAメディカルセンターの3ヶ所にて就業している。	価値創造ストーリー：ひと目で分かるJFA
		102-9	サプライチェーン	日本代表関連事業：日本代表の強化、日本代表戦の開催のために、日本代表選手／所属クラブ、旅行会社、各種用具、トレーニング施設、スタジアム、主管協会等が関係している。 競技会開催事業：各種競技会開催のために、スタジアム、主管協会、運営スタッフ等が関係している。 指導普及事業：選手育成、指導者養成、審判関連、広報関連事業のために、トレーニング施設、会議室、指導者、審判員、印刷会社等が関係している。 社会貢献事業：各種社会貢献事業実施のために、各種パートナー等が関係している。	価値創造ストーリー
		102-10	組織およびそのサプライチェーンに関する重大な変化	2020年に千葉県に「高円宮記念JFA夢フィールド」を開設した。	高円宮記念JFA夢フィールド
		102-12	外部イニシアティブ	国連グローバル・コンパクト（2009年7月）、寄付月間（2015年）、政府「子供の未来応援国民運動」（2019年5月）、ユニセフ「子どもの権利とスポーツの原則」（サッカーファミリー安全保護宣言）（2019年6月）、国連グローバル・コンパクト（2009年7月）、UN Women「女性のエンパワメント原則」（2020年10月）、国連「フットボール・フォー・ザ・ゴールズ」（2025年4月）	価値創造ストーリー：日本中に、そして世界に広がるパートナーシップ
		102-13	団体の会員資格	国際サッカー連盟（FIFA）、アジアサッカー連盟（AFC）、東アジアサッカー連盟（EAFF）、日本スポーツ協会（JSPO）、日本オリンピック委員会（JOC）に、日本を代表するサッカー競技団体として唯一加盟している。	JFAの関連組織図
	2.戦略	102-15	重要なインパクト、リスク、機会	（中期計画参照）	中期計画
	3.倫理と誠実性	102-16	価値観、理念、行動基準・規範	JFAの理念：サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。 JFAのビジョン：サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々との友好を深め、国際社会に貢献する。	価値創造ストーリー
		102-17	倫理に関する助言および懸念のための制度	暴力等根絶窓口、内部通報制度等を設けている。	暴力等根絶相談窓口 内部通報者保護規則

※2024年12月末時点



開示事項	分類	ID	報告要求事項	内容	関連ページ
	4.ガバナンス	102-18	ガバナンス構造	サッカー競技を統括する唯一の団体としての社会的責任をふまえ、FIFA標準規約に基づき、立法（評議員会）・司法（規律委員会・裁定委員会・不服申立委員会）・行政（理事会）の三権分立の体制を導入。	価値創造ストーリー：社会の発展への貢献：ガバナンス体制
		102-19	権限移譲	定款及び事案決裁規則等に基づき、役員、事務局へ権限移譲を行っている。	価値創造ストーリー：社会の発展への貢献：ガバナンス体制 事案決裁規則
		102-22	最高ガバナンス機関およびその委員会の構成	法令及び定款に基づき、評議員会は役員等の選任・解任等を行い、理事会は法人の重要な業務執行の決定、理事の職務執行の監督等を行っている。評議員は、理事、監事、職員、司法機関又は常設委員会の委員を兼ねることが禁止されており、業務執行権を有せず、独立性が確保されている。任期は4年で、79団体から1名ずつ推薦され、選任されている。現在、女性評議員は3名。役員は任期2年で、理事は15名中男性19人、女性6人（40%）となっている。	価値創造ストーリー：社会の発展への貢献：ガバナンス体制 定
		102-23	最高ガバナンス機関の議長	評議員会の議長は、評議員の中から選出することとなっており、組織の業務執行を行う者と兼ねることはない。	評議員及び評議員会規則
		102-24	最高ガバナンス機関の指名と選出	代表理事である会長、副会長、専務理事、常務理事は、評議員会で予定者を選出し、理事会で選定する方法で決定している。	価値創造ストーリー：社会の発展への貢献：ガバナンス体制
		102-26	目的、価値観、戦略の設定における最高ガバナンス機関の役割	理念、ビジョン、中期計画は、理事会が決定している。	価値創造ストーリー：社会の発展への貢献：ガバナンス体制
	5.ステークホルダー・エンゲージメント	102-40	ステークホルダー・グループのリスト	（関連組織図参照）	価値創造ストーリー：社会の発展への貢献：ガバナンス体制
	6.報告実務	102-52	報告サイクル	年次	このレポートについて（P3）
		102-53	報告書に関する質問の窓口	お問い合わせ窓口に記載の代表電話、WEBフォーム。	JFA組織概要
		102-54	GRIスタンダードに準拠した報告であることの主張	この報告書は、GRIスタンダードの中核（Core）オプションに準拠して作成されている。	
		102-55	内容索引	このGRIスタンダード対照表 ※スタンダード外の項目は、末尾に記載している。	

開示事項	分類	ID	報告要求事項	報告要求事項	関連ページ
200 経済	201 経済パフォーマンス	201-1	創出、分配した直接的経済価値	経常収益：200億3,636万円 経常費用：220億6,657万円（うち、公益目的事業として205億3,007万円（約93%））	評議員会・理事会報告（3月定時評議員会報告事項）
		201-4	政府から受けた資金援助	日本スポーツ振興助成、競技力向上事業補助金・選手強化NF事業	日本スポーツ振興助成事業報告 競技力向上事業補助金・選手強化NF事業一覧
	203 間接的な経済インパクト	203-2	重要な間接的経済インパクト	都道府県サッカー協会等への補助金、自治体と連携した「夢の教室」等の開催、小学校体育サポートほか	価値創造ストーリー：社会の発展への貢献：施設・拠点
300 環境	302 エネルギー	302-1	組織内のエネルギー消費量	（本レポート内に記載）	環境（P8）
	305 大気への排出	305	温室効果ガス（GHG）排出量（スコープ1～3）	（本レポート内に記載）	環境（P8）
400 社会	401 雇用	401-1	従業員の新規雇用と離職	新規雇用者数 ※中途採用比率100% 正職員：16人（女性5人（31%）） 臨時雇用職員：10人（女性10人（100%）） 離職者数 正職員：13人（女性3人（23%）） 臨時雇用職員：12人（女性10人（83%））	価値創造ストーリー：ひと目でわかるJFA
	405 ダイバーシティと機会均等	405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	女性理事割合：15人中6人（40%） 事務局員の女性割合：250人中116人（46%）	人権 > ジェンダー平等（P14）

※2024年12月末時点



BLUE PEACE DAYS (2019年)

https://www.jfa.jp/national_team/u22_2019/bluepeacedays/



アスピア! JFAサステナビリティレポート2024

Thank you.



アスパス!

JFAサステナビリティレポート2024